

ケアラー支援のためのオンラインセミナー 第4回

家族の介護役割を担う子どもたちへの支援とは
— 養護教諭の立場から —

事例検討によるヤングケアラーへの
養護教諭の視点

香川大学 辻 京子

四国大学 西岡 かおり

背景

アンケート調査やインタビュー調査から、ヤングケアラーを把握するための気づきの視点や対応方法について知りたいという意見があった。

インタビュー調査では、観察の視点やヤングケアラーの判断基準がわからない、ヤングケアラーの知識を深めたい、など学びの機会を求めていることが分かった。

目的

1つの事例をグループディスカッションすることにより、ヤングケアラーの観察の視点や対応方法の知識を得ることを目的に実施した。

事例検討を重ねることで、家庭内の状況を注視し、多角的に情報を収集し、子どもの状況をアセスメントする視点やコーディネートする力を養うことができる。

事例の概要

葵 11歳 小学校5年生

養護教諭が、夏休み明けに保健室に来室した葵の様子が気になり、担任教諭へつなぎ関わった事例

担任教諭と協働しながら管理職へ適宜、状況を報告し、専門機関へつなぐことができた。

葵への関わり方に課題が残っている。

方法

時期

- ①2022年12月、2023年1月
- ②2023年6月、7月

参加者

- ①4名（20歳代3名、40歳代1名）
- ②5名（30歳代2名、40歳代2名、50歳代1名）

進め方

事例の読み込み（事前に配布）
事例検討（1時間程度）
振り返り（観察の視点、対応内容、課題）

検討内容

- ①葵の状況をアセスメントする
- ②誰が対象なのか
- ③葵の課題は何か
- ④支援の方向性

【文献】竹鼻ゆかり・齋藤千景・鎌塚優子：ケースメソッド教育に活かす学校用ケース・ブック，東京学芸大学，45 - 50，2021.

結果

20歳代年代の養護教諭

- ・ 葵の発言を注視

「私はそんなに大変なことをしているわけじゃない」

「朝起きたけど学校に行けなかった」

「やらないといけない家の手伝いがあるって黙って休んでごめんなさい」

- ・ 家庭訪問時の室内にゴミが散乱した様子、
母親の発言「娘に頼ってしまっ」に着目

結果

30歳代以上の養護教諭

- ・ 葵の友人たちの発言に着目

しかし、友人との関係性に視点が移った

「葵ちゃんはあるまい言わないけど、お母さんの代わりに家事をしているらしくて大変みたい妹の面倒をみているようだ。前と少し様子が違うし、辛そう」

- ・ 家庭訪問時の母親の服装や言動、室内の様子に着目
ネグレクトを疑う（判断が難しい）

- ・ ケア会議での支援者の関わり方、他機関との連携、地域の専門職に役割を期待

結果

事例検討の内容について

- ① 葵の状況をアセスメントする
 - ② 誰が対象なのか
 - ③ 葵の課題は何か
 - ④ 支援の方向性
- ・・・十分に導き出すことができなかった（課題）

まとめ

気づき

- ・ 児童の発言を聞き逃さない
- ・ 家庭訪問時に家庭内の状況、親の様子や言動に注視

アセスメント

- ・ ヤングケアラーとネグレクトの判断に苦慮

支援

- ・ 家庭への介入に躊躇
- ・ 地域の専門機関と連携
- ・ 家庭への介入は地域の専門職に委ねる

課題

- ・ ヤングケアラーとネグレクトの判断に苦慮するのではなく、「家庭に課題を抱える児童」に気づき、状況をアセスメントすること
- ・ 生きる権利・育つ権利（子どもの権利条約第6条）を守ること
- ・ 事例検討を重ね、知識とアセスメントする力、他機関の専門職につなげていくコーディネート力を習得すること